

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立第一中学校）

平成30年9月25日

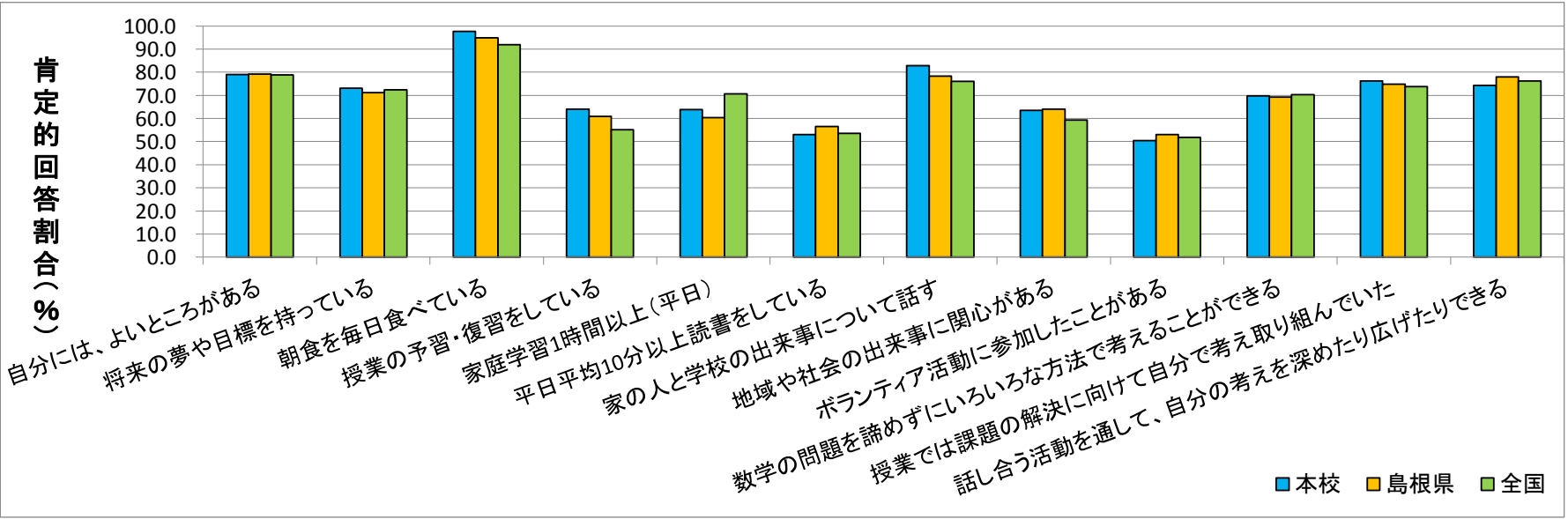
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○基本的な漢字の読み書きや語句の意味については概ね定着している。 ●慣用句(「堰を切る」など)について答えられない生徒が多かった。また、少し工夫を要する短作文(「心をうたれる」を使う等の条件付き)をすることが苦手な生徒が多い。慣用句の意味は理解しているがそれを実際に使うことが定着していない。	・辞書指導の充実を図る。指導者が「言葉は使ってこそ」という意識を持って、短作文等の機会を増やし語彙力が高まるよう働きかけていく。 ・語彙力向上のためには読書指導も有用である。辞書指導に併せ読書指導も工夫していく。
	B (活用)	○「話すこと・聞くこと」について基本的な事柄が身につけている生徒が多い。 ●150～200字程度の分量で書くこと自体に抵抗があるのか、無解答の生徒が見られた。	・書くことに慣れるために、気軽に書ける学習活動を増やしていく。 ・自分が書くときの参考にもなるので、友達同士で作品を読み合う活動も取り入れる。
数学	A (基礎)	○指定された点を座標平面上に示すこと、等式を文字について解くこと、2つのさいころの確率を求めること等の正答率が高い。 ●絶対値を表すこと、歩いた道のりと残りの道のりの関係、連立方程式の解を座標とする点について等の正答率が低い。	・基礎的な学習内容について反復練習する。 ・小テストを実施して、既習内容の確認を行う。
	B (活用)	○放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率や、四角形E B F Dがどのような四角形になるかの正答率が高い。 ●団体料金が通常料金の何%引きになっているかや、全校生徒に対する生徒数の割合についての正答率が低い。	・文章を正しく把握するために読解の支援を行う。 ・発展的な問題を取り扱う時間を確保していく。
理科		○領域については生物的領域が、評価の観点では知識・理解がそれぞれ正答率が高い。 ●選択式の設問に比べて、短答式、記述式の設問の正答率が低い。	・小テストや単元テストで記述式の問題を多く取り扱い、記述問題への抵抗感を解消し、記述での解答を習慣化する。

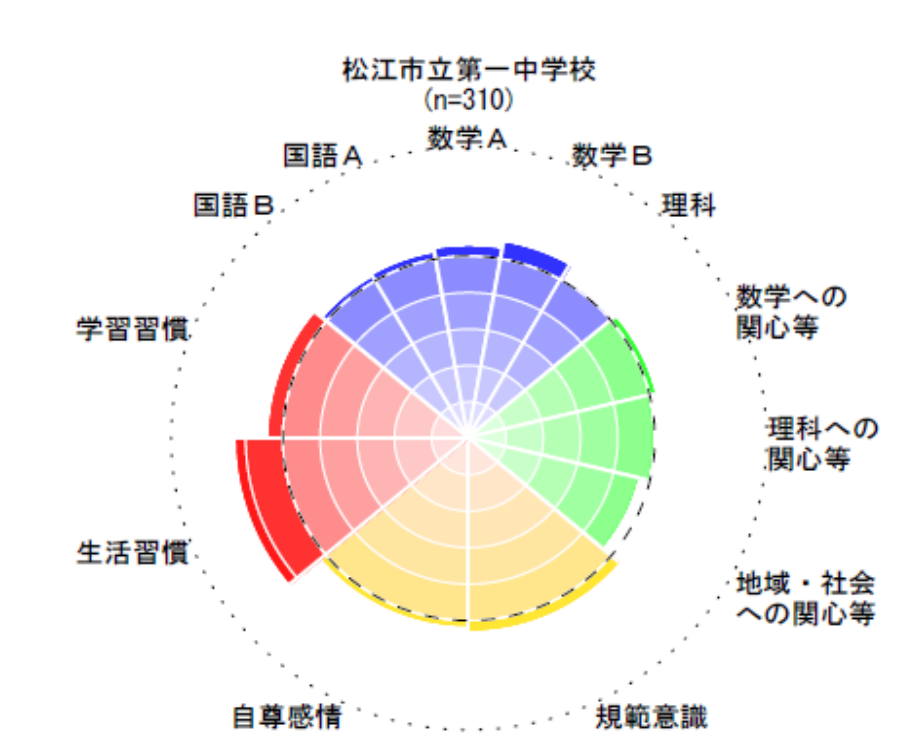
(2) 生活意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
		○生活習慣に関わる項目が全国値を上回っており、規則正しい生活を送る中で家庭学習の時間が確保されていることがうかがわれる。 ○継続して取り組んでいる放課後の補充学習や家庭学習への働きかけにより、「予習・復習」等の家庭学習が授業の理解を助けていると考えられる。 ●授業において、多様な問題解決方法を考えたり、自分の考えを説明したり発表したりする活動を取り入れていくことが課題である。	・話し合い活動が自己の考えや学びを深化させることにつながることを共通理解し、千鳥の杜学園で取り組む授業スタイルの実践を進める。 ・「学び合いを支える集団づくり」として引き続き「こころほっとタイム」を活用し、支持的風土の醸成とコミュニケーション力を高めていく。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・学ぶことに意義を感じている生徒は多いため、その思いを意欲につなげていく必要がある。個別支援を行って基礎基本の徹底を図るとともに、中位層の生徒が自主的に学習を進めて達成感を得ることにより学ぶ意欲を高めていけるよう授業改善を図っていきたい。

【参考】

		平均正答率 (%)			
		本 校	松江市	島根県	全国
国語	A	77	76	76	76.1
	B	62	61	61	61.2
数学	A	68	65	64	66.1
	B	50	46	45	46.9
理科		66	65	66	66.1

受検者数 310 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。